

2012.7.31

株式会社富士通ラーニングメディア

海老原孝徳

CCBA 合格体験記

2011年11月にCCBA日本語ペーパー試験を受験し不合格となったが、2012年7月にCBTで再受験し合格を果たした。私の体験が今後CCBAの受験を目指す方の参考になれば幸いである。

1. 出願から1回目の受験までの流れ

1.1 受験申請

- ・書籍「BABOK 入門」(著:伊藤衡氏)を参考に2011年7月に職務経歴などをオンラインで申請。BA アクティビティの見極めに本書が大いに役立った。申請は1回で承認された。

1.2 受験に向けた準備

- ・2011年7月にFXLIのCCBA対策セミナーを受講。
- ・受験は2011年11月。約1か月を試験対策期間に定め10月中旬から受験勉強を開始。
- ・勉強はFXLIのセミナーで配布された模擬試験に繰り返し解答し、間違った問題はBABOKガイドで確認する方法をとった。最終的に模擬試験では90~95%程度の正答率になっていた。

1.3 CCBA 日本語ペーパー試験の受験から合否通知まで

- ・試験は150問。4択(選択肢から解答を一つ選ぶ)。試験時間は3時間30分。
- ・TOEICのマークシートのような解答用紙を使用。
- ・試験問題および選択肢は日本語/英語が併記されている。日本語訳の質は高いと感じた。
- ・約1ヵ月後にメールで不合格の旨が通知された。合格水準の500点に対し、私の成績は468点。満点が何点なのかわからないため、合格の正答率や私の正答率は不明である。
(仮に1問4点なら、満点は600点、合格水準の500点は125問正解で正答率83%、私の得点468点は117問正解で正答率78%ということになるが、この計算が正しいかは確認できていない)

2. 再受験の出願から2回目の受験までの流れ

2.1 再受験申請

- ・職務経歴のオンライン申請が承認されてから1年以内であれば、再度職務経歴を提出することなく2回目の受験が可能である。
- ・私は極力有効期間ギリギリを受験日に設定する作戦をとった。理由は勉強期間を最大限に確保することと、その期間に他の合格者からの情報が得られると考えたからである。
- ・2012年5月中旬に2回目の受験料と申込書をIIBAに郵送。5月下旬にはIIBAからメールで再受験が承認された旨の通知を受け取った。
- ・受験日は1年という有効期間ギリギリの7月下旬に設定した。

2.2 再受験に向けた準備

- ・合格に至らなかった原因を自分なりに分析してみた。1回目の受験勉強は模擬試験の成績を上げることに注力しすぎており、結果としてBABOKの全体像、各知識エリアやタスクの関係性などが十分に身につけていなかったのではないかと考えた。
- ・そこで今回は全体像を捉えるための素材として「CBAP/CCBA スタディガイド(上/下)」ならびに弊

社で提供している「BABOK 入門」コースのテキストを学習に採り入れた。

- ・試験対策期間も前回の倍にあたる 2 か月とした。毎週 10～15 時間、2 か月で 100 時間ほどを勉強に充てることにした。ちなみに勉強時間は会社の昼休みや通勤時間、出張の移動時間等を中心に確保。
- ・勉強の方法としては、(1)スタディガイドの熟読、(2)スタディガイドの章末問題や練習問題を繰り返し解答、(3)間違った問題は局所的な理解に陥らないよう心がけながらスタディガイドや弊社テキストで該当箇所を読み返す、というサイクルを繰り返し理解を深めた。
- ・最終的にはスタディガイドの問題で正答率が 80%程度、FXLI の模擬試験でも 80～85%程度であった。この成績は、実は 1 回目の模試の平均正答率よりも低いのだが、内容を見ると以前は全体像を捉えられず誤っていた問題にも正解するようになっており、傾向の変化を実感できるようになっていた。

2.3 CBT 試験による再受験

- ・同じ時間帯に CCBA を受験される方がもうひとりいらっしゃった。
- ・本人確認は運転免許証で OK。試験会場には耳栓を持参した。ペットボトルの持ち込みも認めていただいた。
- ・ペーパー試験と同様に 150 問、3 時間 30 分。
- ・ラジオボタンにて解答を選択しながら 150 問を解いていく。
- ・ペーパー試験と同じく日本語/英語が併記されていた。
- ・設問はペーパー試験に比べ、短文であった。
- ・CBT 試験の日本語訳の質が良くないという情報もあったが、実際には問題ないレベルだと感じた。
- ・150 問中 3 問ほど、日本語の問題文では意図が十分に理解できない問題に遭遇した(訳の質が悪いわけではない)。その 3 問については併記されている英文を読む必要があった。それにより 2 問は意図を理解できたが、残り 1 問については日本語/英語双方を何回読み返しても結局言いたいことがよくわからなかった。
- ・画面に表示される日本語フォントは少々個性的である(慣れれば支障はない)。
- ・解答に確信が持てない問題にはフラグを立てつつ 150 問に順次解答。ひととおり解答が済んだ時点で残り時間は 1 時間 15 分、フラグのついた問題は 55 問ほどであった。
- ・残り時間が短い場合はフラグを立てた問題だけを見直すつもりであったが、全問を見直す時間がありそうだと判断し 1 問目から全ての問題を対象に見直しを行った。
- ・見直しの過程で、前半部分を中心に幾つかのケアレスミスを発見。やはり見直しは重要である。
- ・見直しが完了した時点で残り時間が 3 分、正答率は 80%以上だろうという手応えであった。採点の手続きを行い無事に合格した旨のメッセージが表示された。
- ・本来は合格の証拠として画面を印刷するらしいのだが、この試験会場ではプリンタが使用できないとのことで、メッセージが表示された画面をスマホで撮影することを認めていただいた。
- ・試験対策として全体像を理解することを意識した学習方法と、FXLI の伊藤講師による出題傾向のアドバイスは大いに役立った。伊藤講師が例に挙げられたものに傾向が酷似した問題が何問も出題された。また全体像を理解するうえで弊社テキスト(特に第 3 章の部分)は大いに役立った。情報の粒度が適切で全体を理解する助けになった。

受験にあたり、受験ガイドや既に CBAP/CCBA に合格された方の合格体験記など、IIBA 日本支部のサイトの情報はたいへん参考になりました。関係者のお力添えあってこそその合格であったと感謝しています。ありがとうございました。

以上